

各賞表彰等(概要)

詳細は Web サイト (https://www.ipsj.or.jp/award/sho_index.html) をご覧ください

第 84 回全国大会 大会優秀賞・大会奨励賞の表彰

去る 2022 年 3 月 3 日～5 日に愛媛大学城北キャンパスにてハイブリッド開催いたしました第 84 回全国大会の大会優秀賞・大会奨励賞は「大会優秀賞・大会奨励賞候補者選定手続き」規程に基づき、下記の通り受賞者を決定しました。

【大会優秀賞】

- 「共通教科情報科の知識体系に関する一考察」
赤澤 紀子 君
- 「CoCoBo: 生体情報と機械学習を用いた人の心をリアルタイムに理解するロボット」
井口 拓海 君
- 「深層強化学習による機会損失を考慮した投資戦略の構築」
井上 修一 君
- 「軽量デバッグを用いたマルウェア動作妨害機構の設計と実装」
志倉 大貴 君
- 「自然言語処理モデルを用いたウミガメのスープの問題作成支援手法とその実装『UmigaMaker's』」
角谷 康太 君
- 「プライバシー保護が必要な個人データに対応した分散機械学習モデルの検討」
高野 紗輝 君
- 「鶏の動物行動学的分析を支援するための行動推定と行動パターンの可視化」
宅野 亮 君
- 「Half Field Offense における好奇心駆動探索とコミュニケーションを利用した深層強化学習」
田村 純一 君
- 「深層学習による自己回帰モデルを用いた俳句生成器の評価」
平田 航大 君
- 「デジタルツインタービンをを用いた異常検知のための空間探索手法に関する一検討」
深水 一聖 君

【大会奨励賞】

- 「テキスト感情分析におけるマルチタスク学習の有効性」
浅野 晴暉 君
- 「PC のカメラ画像を利用した非接触式文字入力方式」
飯沼 弦貴 君
- 「UV インクを印刷した熱収縮シート構造による Ron Resch パターンの自己折り手法」
小山 和紀 君
- 「知識ベースを対象とした異種データ統合」
佐藤 祥吾 君
- 「物理時間駆動と論理時間駆動に対応したリソース管理機能を有するリアルタイム OS」
高堂 航希 君
- 「プログラミング演習におけるコーディングシーケンス共有システムの評価」
爲近 瑛太 君
- 「会話音声から句読点付きテキストの End-to-End 認識」
野崎 樹文 君
- 「UTAKATA: 流水と電気分解泡を用いたティッカー表示」
福島 真花 君
- 「ソフトウェア自動チューニングにおける反復 1 次元 d-spline 探索法の複数か所同時適用」
矢島 雄河 君
- 「マイクロサービス環境のためのマルチレイヤトレーニングの設計と実装」
吉谷 玲奈 君



● 論文誌ジャーナル掲載論文リスト

Vol.63 No.7 (July 2022)

【一般論文】

- スポーツ傷害のリスク評価に向けた運動データの特徴抽出手法
田中 毅 他
- フォールトライン理論を応用した議論の可視化とファシリテーションの役割
熊田ふみ子 他
- Pseudo Human Sense in the Loop: 聴衆の視覚の疑似フィードバックによるプレゼンテーション支援方法 †
野口紅葉 他
- A Thermal Comfort and Peak Power Demand Aware VRF Heating/Cooling Management Framework: Simulation and On-site Experiment
Dafang Zhao 他

*: 推薦論文 Recommended Paper

†: テクニカルノート Technical Note



● 論文誌トランザクション掲載論文リスト

(July 2022)

【論文誌 プログラミング Vol.15 No.3】

- Implementing Micro Frontends using Signal-based Web Components
Yuma Nishizu 他



【論文誌 デジタルプラクティス Vol.3 No.3】

- 無線 LAN 利用状況調査に基づいて策定した改善策の検証
福田 豊 他
- オンライン公開講座としてのサイバーセキュリティ堅牢化演習の運営
丸山一貴 他
- 複数回線を冗長併用する通信技術の WebRTC 映像伝送への適用と評価
金子直矢 他
- 遅延値に基づく車両向けコンテナ型アプリケーションの動的エッジオフローディングの実装と評価
古澤 徹 他
- データアクセス制御を持つ自動テスト環境の構築
吉村和浩 他
- 家庭用スマートメータへの適用を目的とする世帯の在宅推定手法の開発
大島 悠 他
- 教室におけるオンライン講義受講のための無線接続環境評価
石原知洋 他



【論文誌 数理モデル化と応用 Vol.15 No.3】

- 電気炉製鋼法におけるスクラップ配合に対するモデル化とその解法の提案
佐藤 輝 他
- 呼吸の特徴量を用いた心拍間隔の欠損補完
野村涼子 他
- 一対比較データと目的変数分布の分位数を用いた回帰モデルの学習
南部優太 他
- Modeling Pooling Layers For CNN Initialization
Takahiko Henmi 他
- ばねモデルを用いた交通信号機スプリット制御法
藤森 立 他
- 群知能アルゴリズムによる交通情報補間システムの開発
須賀 聖 他
- 特定の近代書籍出版者における低出現頻度文字種の獲得方法
竹本有紀 他
- 綜統枠数の制約下での織物組織図の近似
吉田哲也 他
- 画像投稿 SNS におけるハッシュタグの投稿関連度予測
神野悦太郎 他
- ダイヤ乱れにロバストな車両運用計画と留置計画の同時作成手法
畠山遼子 他



【論文誌 コンピューティングシステム Vol.15 No.1】

- 実対称固有値分解に対する反復改良法の高速化
内野佑基 他
- FPGA Acceleration of Swap-Based Tabu Search for Solving Maximum Clique Problems
Kenji Kanazawa 他
- Numerical Investigation into the Mixed Precision GMRES(m) Method using FP64 and FP32
Yingqi Zhao 他
- Solving Block Low-Rank Matrix Eigenvalue Problems
Akihiro Ida 他
- Fast Concurrency Control with Thread Activity Management beyond Backoff
Kosei Masumura 他



◎ IPSJ カレンダー ◎

学会イベントの最新情報を下記 URL でご案内しています。新型コロナウイルス感染症拡大を受け、開催方法の変更、開催中止などの可能性がありますので、最新情報をご確認いただきますようお願いいたします。

<https://www.ipsj.or.jp/calendar.html>



今月の会員の広場では、5月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。

巻頭コラム「報道の現場を変えたプログラミングスキル」

■ビジネスの現場においてITは手段にすぎないと、ときにITを軽んじる文脈で言われることがあります。本記事では、ITスキル（ここではプログラミングスキル）は手段であったとしても、これを身につけることの重要性を示していただいております。学び直しやスキルのきっかけとなる刺激をいただきました。（大場克哉）

■研究職ではない方のITへの取り組みを紹介していただくと、社会実装を考える上で大変参考になる。今回の記事は特に当方の現職に近い業種でもあり共感できた。（匿名希望）

■誰でもプログラミングを学ぶことは間接的には良いことがあると思っておりますが、直接的にも役に立つことが割とあるということを示しているように思います。プログラミングを学ぶ人たち、あるいは勉強させられる人々たちへの良い動機づけになる記事と思います。（桔梗宏孝）

巻頭言「編集長就任にあたって」：「会員を巻き込んだ魅力ある会誌を目指して」

■歴代の会誌編集長の方々が自らの思いだけでなく、会員にとっての価値向上に努力されている様子が分かりました。改めて感謝申し上げます。今後新たな分野での情報処理技術を活用したイノベーションの紹介も続けていただければと思います。（匿名希望）

巻頭言「副編集長就任にあたって」

「続・新たな冒険への出発（そしてファイナル!）」

■日本最大かつ最高の情報系同人誌という表現はとても良いと思った。そういった認識で取り組んでいることを知ることができた。（綱島隆太）

「ノイズとシグナル」

■視野の狭窄化・志向の硬直化を防ぐノイズ源としての雑誌の役割のお話をご紹介され、また社会に伝えるべきシグナ

ルがあるということ述べておられ、印象に残りました。会誌を読むモチベーションの向上にもつながりそうです。（三品賢一）

小特集「個人情報保護法制の最新動向」

「0. 編集にあたって」

■個人情報保護に関しては、技術の進歩や各国の対応強化でルールの見直しが続いている。また、業種の違いによりさまざまなルールがあり全体を捉えるのは難しい。本記事では分かりやすく解説いただいております。今回統一化の道筋が整ってきたという。喜ばしいことであるが実際にいつまでに統一されるのかを、今後も見守っていきたい。（古家俊幸）

「1. 2020年個人情報保護法改正の概要と情報処理実務への影響」

■改定の内容を非常に精緻に説明されていて、理解が深まった。仮名、匿名の件に注目しがちであるが、ほかの改定内容も合わせて対応すべきであることが理解できた。対応しなければならぬ、だけでなく、リスク判断を含めて対応を検討すべきとされている点が、現場からすると、理解しやすい説明になっていた。（匿名希望）

「2. 2021年個人情報保護法改正の概要」

■2021年の改正の要点として、官、民、医療、学術分野等、各々の分野で個別に定められていた法律や規則を統一化、精緻化する、という内容がよく理解できた。（匿名希望）

「3. 個人情報保護法改正と学術研究への影響」

■学術研究における従来の個人情報保護法においては、所属の属性（民間／行政／独立行政／地方行政など）により適用される条例が異なり、それに伴い手続きも異なるため複雑であり、また、条例と実運用の間に個別「配慮」という別の問題点も相まってより理解と判断を鈍らせていたことが理解できた。今回の改正により、学術研究目的においては所属にかかわらず、個人情報保護法が「一律」除外となるが、安全管理措置にかかわる開示請求の義務は別途発生するという点が分かりやすかった。（匿名希望）

「4. 個人情報保護法改正とAI開発」

■具体的な例で、AIにおける個人情報の扱いの問題や注意点について理解できた。AI利用の現場向けに、これらを個人情報の扱いの確認点リストなどに整理いただければ、さらに有用と思う。（匿名希望）

■複数組織で連携したAI学習が可能となることは大きな成果が期待できると感じています。解説にある連合学習などの技術進展に期待しています。（匿名希望）

「5. 倒産処理と情報資産をめぐる規律」

■倒産処理と個人情報について、破産処理におけるデータの経済的価値の意義や個人情報の扱いなど、初めて学ぶことができ、有益であった。また破産者のマップの事件など、従来の法律の情報公開の目的がITによって別の弊害につながってしまっており、その両立の難しさが理解できた。(匿名希望)

DP コーナー「超スマート社会実現に向けた情報技術活用のプラクティス」

「0. 編集にあたって」

■社会実装をどのように進めていけばよいのかという点について示唆に富んだテーマ選定だった。同様の取り組みをしている企業の技術者・研究者にとって参考になる内容であった。(匿名希望)

「1. [招待論文] スマートホスピタル構想における汎用型多目的ロボットの活用」

■近年、業務の作業者を歩行ロボットへ置き換える事案を見かける中、病院内で活用する際の問題点や効果などをご紹介され、普段はなかなか知ることのできない情報でしたので、興味深く拝見しました。(三品賢一)

■論文にある、院外企業との連携し活動をされているビジョンやマイルストーンなどの活動についても紹介いただけると提案が増えると思います。(匿名希望)

「2. [招待論文] 新たな利用時品質モデルの考え方」

■マニアックな点ですが、個人的には興味があるので、のちほど本編も読んでみたいと思いました。(匿名希望)

■利用時品質モデルという考え方で時代の変化に対応するアプローチが大変面白く感じられた。また、先行事例の紹介でこれまでもいろんな品質評価モデルがあることを知った。(匿名希望)

「3. [招待論文] 農産物流通のDXを加速するスマートフードチェーンの構築」

■農業DXというと、どうしても生産だけに目が行きがちだが、生産から流通、消費までを対象にした研究であり、今後引き続き深い研究が進むことに期待したい。(二又俊仁)

■普段触れることのない話題でしたが、農産物の流通における問題点とそれに対する解決策、現在の取り組みをご紹介され、興味深く拝見しました。(三品賢一)

「4. [招待論文] 超スマート社会における高齢者のIT活用を促進する“人に寄り添うテクノロジー”の展望」

■「誰一人取り残さない」社会を実現するために大切な研究であると感じ、興味深く読ませていただいた。高齢者のIT

活用をサポートする場合に必要となることについて多くの示唆をいただけた論文だった。(桑木道子)

「5. 『超スマート社会実現に向けた未来創造』インタビュー」

■デジタルプラクティスコーナーはそのタイトルの通り、超スマート社会に関する事例を紹介することがその目的ですが、本特集は、超スマート社会の全体像について解説した記事となっており、本特集の内容を前提に、同コーナーの実例を紹介した特集を眺めることができ、全体像を見失うことなくコーナー全体を読むことができ、非常に参考となりました。プラクティスと云えど、全体的な内容について整理した記事があり良かったです。(石政龍矢)

「[JISA 招待論文] ID 秘匿化ワнтаイム多要素認証」

■興味深く読んだ。興味深い着想であると思った。(大根田秀雄)

■情報セキュリティの新しい動きに対応している。(木戸出正継)

「[提供団体推薦論文] 物流現場の労働力不足の解消とテレワークの実現」

■VDI 構成について参考になりました。(櫻井克彰)

■コクピット運用に関する取り組み方が、トータルに表現されており、どのような観点で構築したか、するべきかが紹介されていた。(大根田秀雄)

連載「情報の授業をしよう! : プログラミングを活用して論理的思考を育む」

■「筋道を立てて考えさせる」ということに共感します。学生から質問があったとき、とかく正解を示して、それで終わりというケースが散見されていますが、私は正解を示すのではなく、「解き方の筋道」をヒントとして与え、学生に考えて正解を導き出してもらっています。その方が、いわゆる「自走式」学生になり、学生にとっても得になります。とてもよい記事でした。(中島俊治)

連載「先生、質問です!」

■IPv6は普及する気配もないのかと思っていましたが、すでにgoogleへのトラフィックの40%がIPv6とのこと。思い込みだけで決めてかかってはいけません。(上田晴康)

■身近なインターネットのプロトコルへの回答ですが、非常に複雑で難しい回答です。移行については、東名高速道路のリニューアルを例に挙げて分かりやすく解説しています。このように、情報処理以外の例を挙げて説明すると非常に理解しやすいと思います。また、対応に関してのネットや機器類にも触れており、質問者や読者に分かりやすいと思います。(清水則之)

教育コーナー「ぺた語義」

「小さな町での ICT 支援」

■現場でのご苦労が生々しく、活き活きとした熱意が感じられる活動紹介だった。細々としたエピソードがたくさんあったのではないと思う。ぜひ、続編を期待する。情報の問題の作り方などより、ストレートに響いてくる。(匿名希望)

「教科『情報』の大学入試に備える」

■限られた時数で大学入試に必要な最低限の知識を付ける、というアプローチが素晴らしいと思いました。また DNCL だけでなく実言語を学ぶことが大切、という点にも共感いたします。(飯坂正樹)

「業務を止めないテレワーク環境」

■苦労している様子が丁寧に示されていて読みやすかった。2022 年 3 月号でも同じく広島大学情報メディア教育研究センターによるユーザサポートに関する論文が掲載されていて感心しながら読んだが、ほかの大学の情報システム部門はどのようになっているか興味が沸いている。(広野淳之)

連載「ビブリオ・トーク：コンピュータ&テクノロジー解体新書 ビジュアル版」

■コンピュータ・技術について、専門的な内容を残しつつイラストをメインで紹介する本書は非常に面白そうな上、それを講義に用いる図の作り方の参考にするというのは私にとっては新しい視点で、今後の活動に大いに役に立つビブリオ・トークであったと感じた。(匿名希望)

連載「5分で分かる!? 有名論文ナメ読み：Chen, S. et al. : Combinatorial Pure Exploration of Multi-armed Bandits」

■組合せ最適腕識別問題において後続研究のベースとなる枠組み手法を提案した論文であること、および本論文以降の発展と課題をしっかりと述べているのが良い。(匿名希望)

■詳細までまだ理解できていないが、興味深い内容だった。現実世界への落とし込みの導入部分があるとなおよかった。(匿名希望)

IT 紀行「全国大会 会誌編集委員会企画『IPJS KIDS』の裏側をレポートしてみた!」

■素晴らしい企画と思います。YouTube で 3 人のプレゼンを拝見しましたが、レベルが高いです。小学生の口から、機械学習、バイオフィルム、薬剤耐性材……などの言葉が飛び出し驚きました。1 人はカナダから英語で堂々たるプ

レゼンでした。これらの準備を想像するに、その努力に本当に感謝いたします。(滝口 亨)

会議レポート「ACM CHI 2021 会議報告 (1)」

■ COVID-19 後の新たな環境下で、いかにして「LIVE！」感を演出するかについて、Chair としての苦悩や努力が綴られており、今後のカンファレンスの在り方として参考になるレポートであった。(匿名希望)

連載「教科『情報』の入学試験問題って？」

「『情報通信ネットワーク』分野の問題」

■ネットワーク分野では、知識だけではなく理解を要求する問題を採点しやすい形で実現することが容易ではなく、いつも定期試験等の作問で頭を悩ませておりました。この記事で、作問側の苦労がうかがえました。また、考えさせる問題を出題可能なレベルまで教育するための教材をどう作るかという視点も提供されており、考えさせられました。(石原 進)

■高校教育に期待するコメントも欲しい。(木戸出正継)

「データベースの試験問題を解いてみる」

■正規化の考え方を、その用語からでなく、目的から自然に導いていってほしいところがとても素晴らしいと思いました。(飯坂正樹)

会誌の内容や今後取り上げてほしいテーマに関して、以下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

■多様性の時代にあって、障がいを克服する情報技術について、取り上げていただきたいです。(匿名希望)

■説明不要と思われるような基礎的な用語でも軽い解説があればさらに記事が読みやすいと感じました。(匿名希望)

「先生、質問です!」には以下の質問をいただきました。

■ DX を進めると日本の国際収支が悪化するとの新聞記事がありました。事実でしょうか?(匿名希望)

■昆虫を遠隔操作する研究の最前線を知りたい。(白石敬典)

note「情報処理」(<https://note.com/ipsj>)に掲載されている記事に関して、以下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

■「ロシアのインテリジェンス機関と ICT」の再掲はタイムリーさが求められる Web メディアとマッチした取り組みであったと思います。(匿名希望)

オンライン化について、以下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

- 漫画のようにイラストがメインとなっているものは電子版でもよいと思うが、会誌のように文章を伴うものは冊子版の方が読みやすい。(匿名希望/ジュニア会員)
- 良いと思います。できればテキスト情報以外の動画や音声による提供もあると良いと思います。(匿名希望)
- 可能なら、希望者に対して、PDFもしくは情報学広場のダウンロードリンクをメールで送付いただけるサービスがあれば嬉しいです(スマホやタブレットで情報学広場にアクセスしてダウンロードすることが大変で、パソコンを使っ

ている状況です)。(渡邊和樹)

【本欄担当 梁 俊, 白井匡人/会員サービス分野】

これらのコメントは Web 版会員の広場「読者からの声」< URL : <https://www.ipsj.or.jp/magazine/dokusha.html> > にも掲載しています。Web 版では、紙面の制限などのため掲載できなかったコメントも掲載していますので、ぜひ、こちらもご参照ください。会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会 Web ページでも受け付けております。今後もより良い会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。



「情報処理」アンケート回答フォーム▶
<https://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>



人材募集 (有料会告)

申込方法: 任意の用紙に件名, 申込者氏名, 勤務先, 職名, 住所, 電話番号および請求書に記載する「宛名」, Web掲載の有無などを記載し, 掲載希望原稿〔募集職種, 募集人員, (所属), 専門分野, (担当科目), 応募資格, 着任時期, 提出書類, 応募締切, 送付先, 照会先〕を添えて下記の申込先へ, E-mail, Fax または郵送にてお申し込みください。

*都合により編集させていただく場合がありますので, ご了承ください。

申込期限: 毎月15日を締切日とし翌月号(15日発行)に掲載します。

掲載料金: 国公立教育機関, 国公立研究機関 22,000円(税10%込)

賛助会員(企業) 33,000円(税10%込)

賛助会員以外の企業 55,000円(税10%込)

*本誌へ掲載依頼いただいた場合に限り, 追加料金4,400円(税10%込)で同一内容を本会Webページに掲載できます。

申込先: 情報処理学会 会誌編集部門(有料会告係) E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375

*原稿受付の際には必ず原稿受領のお知らせを差し上げています。もし3日以内(土日祝日除く)に返信がない場合は念のため確認のご連絡をください。

*特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと

■近畿大学工学部情報学科

募集人数 ①教授または准教授または講師または助教 1名

②教授または准教授または講師または助教 1名

専門分野 ①情報メディア分野, 情報ネットワーク分野, データサイエンス分野, 人工知能分野のいずれか

②情報システム分野, データサイエンス分野, 人工知能分野のいずれか

担当予定科目 ①情報メディア演習, Web技術, 音響学, プログラミング実習, 情報処理実習, 基礎ゼミ, 卒業研究ゼミナール, 卒業研究ほか

②情報システム演習, プログラミング実習, プログラミング特講, 情報処理実習, 基礎ゼミ, 卒業研究ゼミナール, 卒業研究ほか

応募資格 博士号の学位を有する方(助教は見込みも可), 教授・准教授は大学院の指導を担当できる方

着任時期 2023年4月1日

提出書類 詳細はJREC-INまたは本学Webページをご覧ください

応募締切 2022年7月25日(必着)

送付先 〒739-2116 広島県東広島市高屋うめの辺1

近畿大学工学部 学部長 旗手 稔 宛

照会先 近畿大学工学部情報学科 学科長 片岡隆之

E-mail: kataoka@hiro.kindai.ac.jp Tel(082)434-7384 (内線885)

■国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学大学院情報学研究科

募集人員 教授 1名 ※詳細はWebページ(<http://www.nagoya-u.ac.jp/employment/index.html>)参照

所属 複雑系科学専攻複雑系計算論講座

専門分野 情報学・計算基盤

業務内容 ・計算科学的アプローチにより先端的な研究を推進し, 新分野を切り開き, 複雑系現象の解明に努めるとともに社会が必要とする現実に即した実在系研究開発にも取り組む

・情報学研究科の運営に積極的に取り組み, 本研究科のミッション達成に貢献する

・大学院情報学研究科および情報学部における教育と研究指導を担当する

担当科目 (1) 大学院

・博士前期課程 複雑系科学演習, 修士論文研究, 特論等

・博士後期課程 博士論文研究

(2) 学部

専門分野に関連する専門基礎科目, 全学教育科目, 専門科目等

着任時期 2023年3月1日

応募資格 ・博士学位を有していること

・情報学を基盤とした複雑系科学を専門分野とし, 優れた研究業績を有すること

・大学院と学部における教育と研究指導に, 熱意と責任感を持って取り組むこと

・関連する科目あるいは基礎的科目の教育経験があることが望ましい

応募締切 2022年7月29日(必着)

提出書類 1) 履歴書(形式自由, E-mailアドレス記載) 1部

2) 研究業績リスト ①学術雑誌論文, ②国際会議論文, ③総説・解説・著書など, ④国内外口頭発表, ⑤その他(受賞, 獲得研究費(研究題目, 研究期間, 獲得金額, 代表・分担を明記), 特許等があれば区分して記載)

3) 主要論文コピー(5編以内)

4) 今までの研究概要および着任後の抱負(各々A4用紙2ページ程度)

5) 教育についての実績と抱負(A4用紙2ページ以内)

6) 応募者について照会可能な方2名の氏名と連絡先

7) 類型該当性の自己申告書(様式は<https://www.i.nagoya-u.ac.jp/resume/>から取得)

送付先/照会先 以上の書類を郵送, およびそれらのPDFファイルをE-mailで送付ください

〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町

国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学大学院情報学研究科

張 賀東 E-mail: keisanron@i.nagoya-u.ac.jp Tel(052)789-4803

※郵送の封筒表面には「情報学研究科教授 応募書類在中」と記入ください

※E-mailに添付のファイルサイズは約40MB以下となるようにしてください

その他 ・名古屋大学は業績(研究業績, 教育業績, 社会的貢献, 人物を含む)の評価において同等と認められた場合には, 女性を積極的に採用します

・提出された書類については, 本選考以外の目的には使用しません

・応募書類は, 本選考委員会が責任を持って処分し, 返却しません

・面接に要する交通費は支給しません

■東京電機大学未来科学部情報メディア学科

募集人員 教授または准教授 2名

勤務内容 (分野1): 人工知能・深層学習・コンピュータビジョン等のメディア情報処理

(分野2): 情報システム, クラウドコンピューティング, ビッグデータ等

業務内容 (分野1): 人工知能(講義), 機械学習(講義・演習), 画像処理(講義・演習)等の学部科目および人工知能分野の大学院科目等の担当, および, 研究室における人工知能・深層学習・コンピュータビジョン等のメディア情報処理分野での学部生・大学院生の研究指導

(分野2): ソフトウェア工学と分析・モデリング(講義・演習), 数理最適化(講義・演習), コンピュータプログラミング(1, 2年生向け演習)等の学部科目および先端情報システム分野での大学院科目等の担当, および, 研究室における情報システム, クラウドコンピューティング, ビッグデータ等の情報処理分野の学部生・大学院生の研究指導

着任時期/勤務地 2023年4月1日/東京千住キャンパス(東京都足立区千住旭町5) /勤務形態: 常勤(任期なし)

応募書類 以下の書類を郵送してください

(1) 履歴書, (2) 研究業績, (3) 教育業績, (4) 主な業績3点, (5) 着任後の教育・研究・グローバル化に対する抱負, (6) 東京電機大学以外の方による推薦書1通, (7) 応募者について所見が伺える方1名(推薦書作成者可)の情報, (8) 書類審査通過後に学位記のコピー *詳細はJREC-INをご覧ください

応募締切 2022年8月15日(当日消印有効)

送付先 〒120-8551 東京都足立区千住旭町5

東京電機大学未来科学部情報メディア学科 教員公募係
学科長 増田英孝 E-mail: masuda@mail.dendai.ac.jp
Tel(03)5284-5566

応募は郵送に限ります。必ず簡易書留とし、「情報メディア学科教員(分野1) 応募書類在中」または「情報メディア学科教員(分野2) 応募書類在中」と朱書してください

その他 【選考方法】 応募書類に基づき, 書類審査を行います。審査結果は, 応募者本人宛に電子メールで通知します。書類審査を通過後, 教育研究業績等のプレゼンテーションおよび模擬講義を含む面接審査を実施(予定日: 9月3日PM, 9月10日PM)

【教育目標と理念】 情報メディア学科は, 知的情報空間を創造するために必要な情報メディア技術と, それを実社会に適用する能力を修得させることを目的とします。同時に, 経済・社会活動のグローバル化に対応できるプロフェッショナルな能力と, 人間と社会を深く理解できる豊かな教養を兼ね備えた人材を育成します。以上の内容に共感し, 情報メディア学分野の教育・研究に尽力いただける方の応募を歓迎します

【学科ページ・JRECIN 募集情報】

https://www.dendai.ac.jp/about/undergraduate/mirai_kagaku/fi/
https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=3&id=D122060310&ln_jor=0



■東京都立産業技術高等専門学校ものづくり工学科 AI スマート工学コース(情報系を主とした融合システム分野)

募集人員 准教授または助教 1名

専門分野 情報系を主とした融合システム分野. たとえば, Society 5.0 (IoT, エッジ AI, 機械学習などの融合技術) に関する先進的システム分野で, 情報科学, 情報工学およびその関連分野(科研審査区分中区分 60)

担当科目 情報処理, プログラミング, 情報システム基礎, セキュリティ基礎, データサイエンス等の情報関連科目, 実験実習, ゼミナール, 卒業研究, 専攻科 特別研究など

応募資格 ①高専での教育・研究に理解と強い意欲がある方
②学生指導に熱意を持ち, 本校の運営に積極的に貢献できる方
③博士の学位を有する方, もしくはこれに相当する顕著な研究業績の認められる方
④専攻科の学生の指導ができる方
⑤情報システムの構築・運用の実務経験があることが望ましい

着任時期 2023年4月1日

応募締切 2022年8月19日(必着)

照会先 東京都立大学法人 総務部人事課人事制度係

E-mail: kyoinsaiyo@jmj.tmu.ac.jp Tel(042)677-1111 (内) 1027

その他 詳細は https://www.houjin-tmu.ac.jp/recruit_teacher/cit/ をご参照ください

■東京都立産業技術高等専門学校ものづくり工学科 情報システム工学コース(情報科学・情報工学における情報ネットワーク関連分野)

募集人員 助教 1名

専門分野 情報科学・情報工学における情報ネットワーク関連(科研審査区分 60060) 分野

担当科目 情報システム工学コース: ネットワーク基礎, システムプログラミング I, システムプログラミング II, コンピュータネットワーク, 応用ネットワーク, 情報システム運用管理, クラウド基礎, クラウドコンピューティング I, クラウドコンピューティング II, 情報システム工学実験実習 I・II・III 等の中から5科目程度

ただし, 2026年度までは電子情報工学コースとの併任であることから, ゼミナール・卒業研究および情報処理 II, コンピュータハードウェア I・II, 電子情報工学実験実習 I・II・III 等のいずれかを担当していただくこともあります

応募資格 ①博士(工学)の学位を有する方または取得見込みの方
②高専での教育・研究に理解と強い意欲がある方, 特に高度 ICTアーキテクト育成に強い意欲がある方
③本科・専攻科の学生指導に強い意欲がある方
④本校の運営に積極的に貢献できる方
⑤地域貢献活動に理解と強い意欲がある方
⑥産学連携および学学連携に理解と強い意欲がある方
⑦データセンター・情報センター等で構築・運用・監視の実務経験を有する方が望ましい

着任時期 2023年4月1日

応募締切 2022年8月19日(必着)

照会先 東京都立大学法人 総務部人事課人事制度係

E-mail: kyoinsaiyo@jmj.tmu.ac.jp Tel(042)677-1111 (内) 1027

その他 詳細は https://www.houjin-tmu.ac.jp/recruit_teacher/cit/ をご参照ください

■東京都立産業技術高等専門学校ものづくり工学科 情報システム工学コース（情報科学・情報工学 におけるデータベース関連分野）

募集人員 助教 1名

専門分野 情報科学・情報工学におけるデータベース関連（科
審査区分 60080）分野

担当科目 情報システム工学コース：アルゴリズムとデータ構造、
データマイニング、多変量解析、データサイエンス、オートマト
ン、データベース、情報システム工学実験実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ等 の
中から5科目程度

ただし、2026年度までは電子情報工学コースとの併任であるこ
とから、ゼミナール・卒業研究は担当いただきます。また、電子
情報工学コース：情報処理Ⅱ、アルゴリズムとデータ構造、デー
タベース、電子情報工学実験実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ等のいずれかを担当
していただくこともあります

応募資格 ①博士（工学）の学位を有する方または取得見込みの方
②高専での教育・研究に理解と強い意欲がある方、特に高度情報
アーキテクト育成に強い意欲がある方
③本科・専攻科の学生指導に強い意欲がある方
④本校の運営に積極的に貢献できる方
⑤地域貢献活動に理解と強い意欲がある方
⑥産学連携および学学連携に理解と強い意欲がある方

着任時期 2023年4月1日

応募締切 2022年8月19日（必着）

照会先 東京都立大学法人 総務部人事課人事制度係
E-mail: kyoinasaiyo@jmj.tmu.ac.jp Tel(042)677-1111（内）1027
その他 詳細は [https://www.houjin-tmu.ac.jp/recruit_](https://www.houjin-tmu.ac.jp/recruit_teacher/cit/)
teacher/cit/ をご参照ください

■明治大学理工学部電気電子生命学科

募集職種／募集人員

公募 A および B：専任准教授または専任講師 2名

公募 C：専任教授または専任准教授、専任講師 1名

専門分野

公募 A：データサイエンス・AI

公募 B：システム工学・知能ロボティクス・機械学習

公募 C：生体医工学・医用ヘルスケアシステム・医療福祉工学

担当科目

公募 A：データサイエンス・AI 基礎、同実習、信号処理等

公募 B：電気回路、システム工学、信号処理等

公募 C：先進医療技術、電気回路等

応募資格 博士の学位をお持ちで教育・研究に熱心で、協同して
学科運営にあたっていただける方。専門分野において優れた研究
実績をお持ちの方

着任時期 2023年4月1日

提出書類 履歴書、業績リスト、教育・組織運営についての抱負、
研究についての実績概要および抱負、所見を求め得る方2名の連
絡先、主要論文別刷

応募締切 2022年8月23日（必着）

送付先／照会先 理工学部電気電子生命学科 熊野照久

E-mail: kumano@meiji.ac.jp Tel(044)934-7294

Fax(044)934-7909

※詳細は学科 Web ページでご確認ください

<http://www.isc.meiji.ac.jp/~eb/recruitment.html>

（履歴書、業績リストの指定書式あり）

■高知工科大学データ&イノベーション学群 （2024年設置予定）

募集人員 教授または准教授 1名

専門分野 機械学習・統計解析を用いて最先端研究を推進されて
いる方、ないしはデータエンジニアリングの立場から実用化研究、
社会実装応用のフロンティアを切り拓いておられる方。研究分野
は、情報学に限定しない

担当科目 「データサイエンス概論」等のデータサイエンス導入
科目およびその関連科目（機械学習、統計解析など）を3～4科
目担当

着任時期 2024年4月1日（着任時期については応相談）

応募締切 2022年8月31日（17:00 必着）

照会先 データ&イノベーション学教室長 清水明宏

E-mail: saiyokut@kochi-tech.ac.jp Tel(0887)53-1112（代表）

【詳細情報】 https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/corporate/post_4.html

その他 新学群の開設計画に変更があった場合には、本学既存
の学群・研究所等において、教育研究活動に従事いただくこと
になります

■日本大学工学部情報工学科

情報工学科では、下記の要領にて、教員を募集いたします

募集人員 准教授または専任講師または助教 1名

専門分野 ソフトウェア分野、情報システム分野、情報メディア
分野、データサイエンス分野、自然言語処理分野、知能ロボティ
クス分野

担当科目 情報基礎、プログラミング、データ構造、アルゴリ
ズムなどに関連する講義・演習科目

応募資格 博士の学位を有し、当該分野の教育・研究を担当で
きる方。教育・研究に熱意があり、大学運営に理解がある方。大
学院における講義、研究指導ができる方

着任時期 2023年4月1日

提出書類 (1) 履歴書（連絡先と E-mail も明記）、(2) 研究業
績リスト（著書、査読付き論文、国際会議、特許、企業におけ
る開発業績等に区分）、(3) 主要論文別刷またはコピー（5 編
程度）、(4) これまでの研究（開発）概要（A4 版 2 ページ程度）、
(5) 教育実績（常勤・非常勤を問わず、具体的な担当科目名も記
載）、(6) 教育・研究に関する抱負（それぞれ A4 版 1～2 ペ
ージ程度）、(7) 本人に関する所見を求め得る人（2 名）の氏名と
その連絡先（所属、住所、電話、E-mail）

応募締切 2022年9月26日（必着）

送付先 〒963-8642 福島県郡山市田村町徳定字中河原 1

工学部情報工学科 主任 松村哲哉

封筒に「応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で郵送してください。
なお、応募書類は返却いたしません。また、応募はオンラインで
の受付も可能です（書類一式を紹介先メールアドレス宛に送付く
ださい）

照会先 工学部情報工学科 主任 松村哲哉

E-mail: matsumura.tetsuya@nihon-u.ac.jp Tel(024)956-8828

その他 書類選考を経て面接を実施いたします。面接の際の旅
費・滞在費等は応募者の負担となります



FIT2022 第 21 回情報科学技術フォーラム 聴講参加の御案内

2022年9月13日(火)～15日(木) 慶應義塾大学 矢上キャンパス (ハイブリッド開催)

<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2022/>

電子情報通信学会の情報・システムサイエティ (ISS) とヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)、及び情報処理学会 (IPSJ) は、「第21回 情報科学技術フォーラム(FIT: Forum on Information Technology)」を開催します。皆様、奮ってお申込み下さい。講演論文集 (冊子、DVD-ROM) も販売を行います。

■開催イベント (詳細は逐次Webサイトに掲載致します)

【表彰式・招待講演企画】

◎FIT学術表彰式

14日 13:00-13:50

◎船井業績賞受賞記念講演

14日 14:00-15:15

「限られた情報から精度良く：機械学習研究の更なる挑戦」

杉山 将 (理化学研究所 革新知能統合研究センター センター長/東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授)

【トップコンファレンスセッション】

最近数年間に各分野のトップレベルの国際会議・学術雑誌で発表された論文の著者に、その内容を紹介して頂く特別なセッションです。優れた研究内容を把握できるとともに、その著者たちとの質疑応答や情報交換ができる貴重な機会です。ぜひご利用ください。

【イベント企画】 ※タイトル等は変更の可能性があります。

各学会の関係研究会や委員会などから構成されるプログラム委員会において、ホットなトピック、分野横断的な研究テーマ、学生や若手へのメッセージを込めた話題などを中心に、多くの興味深いイベントを企画中です。以下はその一部を抜粋したものです。内容や日時は変更される場合があります。最新の情報は Webページでご確認ください。

| | | |
|-----|-------------|---|
| 13日 | 13:10～15:10 | コンピューテーション学際研究の萌芽 |
| | 15:30～17:30 | 実験室を飛び出る若手情報研究者たちの挑戦 |
| | 15:30～17:30 | 深層生成モデル |
| 14日 | 9:30～12:30 | IoTが拓く未来：～IoT技術が起こす近未来の社会変革とは～ |
| | 15:30～17:30 | 大規模社会人アンケート調査及びクラスター分析による情報分野の社会人ニーズと学生の学びのギャップの見える化の試み |
| 15日 | 9:30～12:00 | 現在進行形の個人情報保護制度改正 |
| | 9:30～12:00 | デジタルプラクティスライブ DXのプラクティス～ニューノーマル時代を生き延びる～ |
| | 13:10～15:40 | 教育DXの取り組み |
| | 13:10～15:40 | メタバースの社会実装とサイバーワールド |

【研究会連携】

電子情報通信学会および情報処理学会のいくつかの研究会が、FIT2022のプログラムとして開催されます。詳細は Webページでご確認ください。

■聴講参加費 (税込)

現地参加、オンライン参加ともに同価格です。

| 参加区分 | 事前価格(8/14まで) | 価格(8/15以降～最終日) |
|------|--------------|----------------|
| 会 員 | 10,000円 | 12,000円 |
| 非会員 | 20,000円 | 24,000円 |
| 学 生 | 無料 | 無料 |

※会員、非会員の聴講参加費には電子版講演論文集 (Webからダウンロード) が含まれております。

※学生の聴講参加 (無料) には電子版講演論文集は付いておりません。電子版講演論文集付きを希望の場合、参加費は 2,000円となります。

※会員、非会員、学生の参加区分の区別は次の通りです。

会 員：情報処理学会、電子情報通信学会、電気学会、照明学会、映像情報メディア学会及び電子情報通信学会と協定を締結した海外の学会 (IEIE、KICS、KIISE、REV、IEEE/CS、IEEE/ComSoc、IEEE/PHO、IEEE/MTT-S) または情報処理学会と協定を締結した海外の学会 (ACM、IEEE、IEEE/CS、KIISE、CSI、CCF) の個人会員、電子情報通信学会の維持員、情報処理学会の賛助会員。

非会員：左記の学会会員以外で学生以外の方。

学 生：会員/非会員を問わず無料 (電子版講演論文集は付きません)。

■聴講参加の申込

申込締切：2022年9月15日 (木) FIT最終日まで

申込方法：FIT2022 Webサイトからお申込み下さい。

※8月14日までは事前価格での申込となりお得です。

■冊子講演論文集・DVD-ROM販売価格 (税込)

| 申込種別 | 個人購入価格 | 法人購入価格 |
|---------------------|-----------|-----------|
| 講演論文集セット (DVD-ROM付) | 60,000円 | 60,000円 |
| 講演論文集分冊 | 13,000円/冊 | 16,000円/冊 |
| 講演論文集DVD-ROM | 10,000円 | 56,000円 |

※講演論文集セットは冊子講演論文集全分冊 (カバー付き)、DVD-ROM 付き

※残部のある限りということになりますので、予め御了承下さい。

※残部がある場合、学生の方には講演論文集DVD-ROMを学割価格4,000円にて販売致します。

※講演論文集の掲載分野 (予定分冊構成)

- 第1分冊：モデル・アルゴリズム・プログラミング、ソフトウェア、ハードウェア・アーキテクチャ
 - 第2分冊：データベース、自然言語・音声・音楽、人工知能・ゲーム、生体情報科学
 - 第3分冊：画像認識・メディア理解、グラフィクス・画像、ヒューマンコミュニケーション&インタラクション、教育工学・福祉工学・マルチメディア応用
 - 第4分冊：ネットワーク・セキュリティ、ユビキタス・モバイルコンピュータリング、教育・人文科学、情報システム
- DVD-ROM：上記全論文とプログラムを収録

■講演論文集の申込

FIT2022 Webサイトからお申込み下さい。

■次年度のFIT開催

2023年9月6日 (水)～8日 (金)

大阪公立大学 中百舌鳥キャンパスにて開催予定

■問い合わせ (FIT事務局)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F

一般社団法人 情報処理学会 事業部門

TEL [03] 3518-8373 E-mail: ipsjfit@ipsj.or.jp

連続セミナー2022

その先へ 情報技術が貢献できること

会 期：2022年6月から12月にかけて全12回シリーズで開催

主 催：一般社団法人情報処理学会

連続セミナー2022 Web ページ <https://www.ipsj.or.jp/event/seminar/2022/>

●全体概要

2020年、2021年と新型コロナウイルスの影響下にあった私たちは、今まさに待ったなしの大きな変革の中にあります。

大きく変容した社会の課題解決や将来の社会基盤の形成を支援する役割が情報技術にはあります。ニューノーマルと呼ばれるポストコロナ社会で、すぐそこにある未来へ向けてAI、仮想現実、ロボットなどの情報技術を活用しサステイナブルな未来に進むことが求められています。

このような状況を受け、2022年の連続セミナーは、企業の戦略担当者、技術系人材、研究者、起業家の方々が新たなビジネスや研究課題を切り拓きいち早く未来に向けた情報技術を活用していただくための礎となるよう企画しました。

昨年のスタイルであるオンライン開催、2-3時間のセミナー、見逃し配信の提供、という利点をより充実させ、より多くの方にフレキシブルに参加いただけるように企画しました。

2022年のセミナーを通じ、情報技術のニューノーマル社会への貢献と動向を俯瞰しつつ、AI、ロボティクス、仮想現実、SDGなど今後活用が期待される技術を取り上げ、その現状や展開、また適用について第一線の研究者・実務者に話していただきます。

●各回テーマ

[7月19日(火)開催] 15:00~17:45

あるべき世界を見る・デザインするための社会シミュレーションへの期待~COVID-19 AI・シミュレーションプロジェクトを通して~ (コーディネータ: 栗原 聡 (慶應義塾大学理工学部 教授/慶應義塾大学共生知能創発社会研究センターセンター長))

1. 今を理解し未来をデザインするための技法 (講師: 栗原 聡 (慶應義塾大学理工学部 教授/慶應義塾大学共生知能創発社会研究センターセンター長))
2. COVID-19感染推定のための多層社会システムモデル (講師: 倉橋 節也 (筑波大学 ビジネス科学研究群 教授))
3. 機械学習による新型コロナウイルス新規陽性者数の予測 (講師: 平田 晃正 (名古屋工業大学 先端医用物理・情報工学研究センターセンター長 (教授)))
4. 感染対策と社会経済活動の両立 (講師: 仲田 泰祐 (東京大学 経済学研究科 准教授))

[9月2日(金)開催] 15:00~17:30

新しい情報通信インフラが実現する行動変容とモビリティ (コーディネータ: 伊藤 昌毅 (東京大学 大学院情報理工学系研究科 附属ソーシャルICT研究センター 准教授))

1. ITが創るモビリティとその課題(仮題) (講師: 伊藤 昌毅 (東京大学 大学院情報理工学系研究科 附属ソーシャルICT研究センター 准教授))
2. 自動運転の社会実装(仮題) (講師: 佐治 友基 (BOLDLY株式会社 代表取締役社長 兼 CEO))
3. 熊本交通リノベーションプロジェクトから考える都市交通の未来(仮題) (講師: 太田 恒平 (株式会社トラフィックブレイン 代表取締役社長))
4. 行動変容研究の実践と応用(仮題) (講師: 米澤 拓郎 (名古屋大学 大学院工学研究科 情報・通信工学専攻 准教授))

[9月26日(月)開催] 13:00~17:00

多様性と環境変化に寄り添う信頼される分散機械学習基盤のための要素技術とその応用 (コーディネータ: 高前田 伸也 (東京大学 大学院情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻 准教授))

1. 信頼されるAIのためのハードウェアとアルゴリズムの協調設計 (講師: 高前田 伸也 (東京大学 大学院情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻 准教授))
2. メカニズムとの学際的統合による新しい分散学習理論基盤の構築 (講師: 今泉 允聡 (東京大学 総合文化研究科 先端科学研究機構 准教授))
3. 広域分散型IoTシステムのための包括的コンピューティング技術 (講師: 高瀬 英希 (東京大学 大学院情報理工学系研究科 准教授))
4. 信頼されるLiDARに向けて (講師: 吉岡 健太郎 (慶應義塾大学 電気情報工学科 専任講師))
5. 信頼されるAI基盤のためのデータ収集と社会基盤での応用 (講師: 木谷 友哉 (静岡大学))

[10月13日(木)開催] 14:00~17:00

生体信号処理とAIで作るプログラム医療機器 (コーディネータ: 山川 俊貴 (国立大学法人 熊本大学 大学院先端科学研究部 准教授))

1. 医療AI向けの生体計測機器の開発と評価 (講師: 山川 俊貴 (国立大学法人 熊本大学 大学院先端科学研究部 准教授))
2. 生の体と人工の知能、対極の両者を結ぶには? (講師: 久保 孝富 (奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 情報科学領域 准教授))
3. プログラム医療機器の薬事規制 (講師: 桐山 瑤子 (株式会社MICIN Regulatory Affairs))

[10月20日(木)開催]

ゲーム・eスポーツ・メタバース：デジタルコンテンツビジネスの進化と教育機関の関わり方について（コーディネータ：Baro Hyun（Founder/CEO of LunaTone Inc.））

1. デジタルコンテンツビジネスの現状と専門人材の必要性について（仮題）（講師：Baro Hyun（Founder/CEO of LunaTone Inc.））
2. 北米大学eスポーツリーグの現状について（仮題）（講師：Nyle Sky Kaweloa（Director of University of Hawaii Esports））
3. アフリカデジタルコンテンツ教育の未来（仮題）（講師：篠田 浩一（東京工業大学 情報理工学院情報工学系 教授））

[11月10日(木)開催] 13:00～15:30

ITとデータセンターのカーボンニュートラル 入門（コーディネータ：鎌田 真由美（情報処理学会理事／日本マイクロソフト株式会社 コンサルティングサービス ソリューションアーキテクトチャ本部長））

1. 企業の財政状態とSDGs対応との関係（講師：白田 佳子（東京国際大学 商学部 特命教授））
2. グーグルにおけるカーボンニュートラルの取り組み（講師：堀地 聡太朗（グーグル・クラウド・ジャパン合同会社 ソリューション&テクノロジー データセンターソリューション事業開発部長））
3. ITとデータセンターのカーボンニュートラル入門（講師：畠山 大有（日本マイクロソフト株式会社 カスタマーサクセス事業本部 シニアクラウドソリューションアーキテクト））

4. 調整中

[11月22日(火)開催] 15:00～18:00

XRの全貌：メタバースから人間拡張まで（コーディネータ：清川 清（奈良先端科学技術大学院大学 サイバネティクス・リアリティ工学研究室 教授））

1. 国内外のXR業界動向～GAFからスタートアップまで～（講師：久保田 瞬（株式会社Mogura 代表取締役社長 CEO、Mogura VR編集長））
2. リアル世界のメタバース化～空間を身にまとう時代に向けて～（講師：山口 征浩（株式会社Psychic VR Lab 代表取締役））
3. Augmented Society:人間拡張による社会の拡張（講師：暦本 純一（国立大学法人東京大学 情報学環 教授／株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 ソニーコンピュータサイエンス研究所京都研究室（CSL）フェロー・副所長、京都研究室室長））
4. ヒトの視点、エージェントの視点、環境の視点：コモングラウンドとインタースペース（講師：豊田 啓介（東京大学 豊田啓介研究室 特任教授／インタースペース研究センター、noiz、gluon））

[12月6日(火)開催] 13:30～16:25

「富岳」が切り開く計算科学（コーディネータ：佐藤 三久（国立研究開発法人 理化学研究所））

1. 「富岳」で実現するSociety 5.0時代のものづくり（仮題）（講師：坪倉 誠（国立研究開発法人 理化学研究所／神戸大学））
2. Society5.0を目指した社会シミュレーション技術（仮題）（講師：伊藤 伸泰（国立研究開発法人 理化学研究所））
3. 「富岳」を使ったリアルタイムゲリラ豪雨予測（講師：三好 建正（国立研究開発法人 理化学研究所 計算科学研究センター データ同化研究チーム チームリーダー））

[12月13日(火)開催] 13:30～16:25

「富岳」とスパコン技術の展望（コーディネータ：佐藤 三久（国立研究開発法人 理化学研究所））

1. 「富岳」を中心とした大規模データ処理システム（講師：佐藤 賢斗（国立研究開発法人 理化学研究所 計算科学研究センター 高性能ビッグデータ研究チーム チームリーダー））
2. 「富岳」がもたらした数値計算環境、現状と課題（仮題）（講師：今村 俊幸（国立研究開発法人 理化学研究所））
3. 次世代高性能計算基盤の開発と最近の動向（講師：近藤 正章（慶應義塾大学 理工学部情報工学科 教授））

●参加費（税込、*配布資料のPDFダウンロードと見逃し配信含）

| 参加区分 | 12枚（予約価） | 6枚（予約価） | | 2枚（予約価） | 1枚（予約価） | 当日申込 |
|-------|----------|---------|--|---------|---------|---------|
| 正会員 | 85,800円 | 49,500円 | | 18,700円 | 11,000円 | 12,000円 |
| 一般非会員 | 117,000円 | 67,500円 | | 25,500円 | 15,000円 | 16,000円 |
| 学 生 | 17,160円 | 9,900円 | | 3,740円 | 2,200円 | 3,000円 |

●問合せ先

〒101-0062 千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4 階
情報処理学会 事業部門 TEL.03-3518-8373 E-mail:event@ipsj.or.jp

会誌「情報処理」64巻表紙デザイン募集!!



会誌編集委員会

会誌編集委員会では、読者の方々にとってより親しみやすく、また商業誌では得られない知識の習得に役立つ雑誌を目指し、日々努力しております。

つきましては、来年の表紙デザインを広く募集いたします。奮ってご応募ください。採用された方には賞金を贈呈いたします。

応募条件

- ・表紙のデザイン（裏表紙、背表紙は含まず）。
- ・A4変形判（天地280mm×左右210mm）4色フルカラー。
- ・描画手法は問いません。
- ・「情報処理」の題字、巻号、法定文字、記事タイトル等必要項目は現会誌をご覧ください。
- ・簡単なデザインコンセプトを添えてください。
- ・応募資格は問いません。
- ・可能でしたら、毎号どこかの色を変更する、1つずつ絵の要素が増えていき12号ですべて揃う…など、号によって少しずつ違ったデザインになるような工夫をお願いいたします（12号分のデザイン案、もしくはテキストでの説明も可）。
- ・QRコードを挿入する個所についてあらかじめ考慮したデザインにさせていただくか、編集委員会にご一任いただけますと幸いです（QRコードを挿入する領域は、32mm×90mmです）。

注意事項

- ・応募作品は返却いたしません。
- ・採用作品の掲載にあたって、学会側で多少の変更をさせていただく場合があります。
- ・採用作品の著作権（著作権法第27条、第28条の権利を含む）は情報処理学会に帰属します。
- ・応募作品は未発表のものに限ります（応募作品の知的財産権について、第三者との間に紛争が生じた場合は、作者がその責を負う）。
- ・応募される場合は、上記注意事項に同意されたものとみなします。

応募締切

2022年11月1日（火）（必着）

結果通知

2022年11月下旬

賞金

採用者1名に4万円

送付先／照会先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F
一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門 宛
E-mail: editj@ipsj.or.jp

[重要] 過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について

2020年12月18日
プログラミング・シンポジウム委員会

情報処理学会発行の出版物著作権は平成12年から情報処理学会著作権規程に従い、学会に帰属することになっています。

プログラミング・シンポジウムの報告集は、情報処理学会と設立の事情が異なるため、この改訂がシンポジウム内部で徹底しておらず、情報処理学会の他の出版物が情報学広場 (= 情報処理学会電子図書館) で公開されているにもかかわらず、古い報告集には公開されていないものが少からずありました。

プログラミング・シンポジウムは昭和59年に情報処理学会の一部門になりましたが、それ以前の報告集も含め、このたび学会の他の出版物と同様の扱いにしたいと考えます。過去のすべての報告集の論文について、著作権者（論文を執筆された故人の相続人）を探し出して利用許諾に関する同意をいただくことは困難ですので、一定期間の権利者搜索の努力をしたうえで、著作権者が見つからない場合も論文を情報学広場に掲載させていただきたいと思っております。その後、著作権者が発見され、情報学広場への掲載の継続に同意が得られなかった場合には、当該論文については、掲載を停止いたします。

この措置にご意見のある方は、プログラミング・シンポジウムの辻尚史運営委員長 (tsuji@math.s.chiba-u.ac.jp) までお申し出ください。

加えて、著作権者について情報をお持ちの方は事務局 (jigyo@ipsj.or.jp) まで情報をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

情報処理学会著作権規程

<https://www.ipsj.or.jp/copyright/ronbun/copyright.html>

IPSJ メールニュースへ広告を出しませんか？

広告をIPSJメールニュースで配信しています。本会会員が主な読者なので、ターゲットを絞った広告に最適です。

- 配 信 数：約41,000通（原則毎週月曜日配信）
- 読 者 層：本会会員および非会員
- 形 式：テキストのみ。等幅半角70字×5行。URLを入れてください。
- 掲載位置：ヘッダ（目次の上）
フッタ（本文の最下行）
- 掲 載 料：ヘッダ：1回55,000円（税10%込）※3社限定
フッタ：1回22,000円（税10%込）
※それぞれ行数超過については別途相談
- 申 込 先：[広告代理店]
アドコム・メディア（株）E-mail: sales@adcom-media.co.jp
〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27 Tel(03)3367-0571 Fax(03)3368-1519
または、情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp Tel(03)3518-8371
- 申込締切：毎週水曜日締切、翌週月曜日配信となります。
- 見 本：

— [広告] —

■■■■ ○○セミナー ■■■■

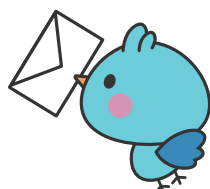
開催日時：1月10日（火）・11日（水）・12日（木）13：00～17：00

会場：○○コンベンションセンター

会費：情報処理学会会員の方には割引があります。

詳細はこちらをご覧ください：<http://www.....com/>

— [広告] —



◆最新刊のご案内

クラウドシステム移行・導入

アーキテクチャからハイブリッドクラウドまで

情報処理学会 監修／金子 格（東北大学） 編著

石黒 正揮（株式会社 三菱総合研究所）

小川 宏高（産業技術総合研究所）

小向 太郎（中央大学）

櫻田 武嗣（アマゾンウェブサービスジャパン合同会社）

千葉 立寛（日本アイ・ビー・エム株式会社）

林 良一（日本電信電話株式会社） 共著

定価 3,300 円（本体 3,000 円＋税）

A5 判／248 頁 ISBN978-4-274-22836-0

2022年
3月下旬
発行

従来のシステムをクラウドシステムに移行させるうえでの標準的なプロセスや必須知識を網羅

自社システムをクラウドに移行する、あるいは自社システムにクラウドを導入するうえでの標準的なプロセスや必須知識を網羅した書籍です。AIOps、CI/CD、DevOps、IaaS/PaaS/SaaS/IDaaS/MaaS、Kubernetes、VPC などのいま 1 つよくわからない専門用語の 1 つひとつを、IT 技術者向けに丁寧に解説しています。

まずクラウドシステムを使ううえでの考え方からスタートして、クラウドシステムに関連した主な技術、考えるべき指針についてわかりやすく解説しています。さらに、各種規制への対応についても述べています。現在のクラウドシステムを支えている技術は高度かつ複雑であり、しかも日進月歩で進化しています。

本書を読むことで、クラウドの移行・導入の全体的なイメージをつかむことができ、取り組むべき課題がみえてきます。



目次

第1章 システムのクラウド移行・導入をデザインする

- 1.1 本書を読み始めるにあたって
- 1.2 クラウドを活用するメリット
- 1.3 クラウドコンピューティングの用語
- 1.4 クラウド移行・導入によってシステムはどう変わるのか
- 1.5 活用するクラウド環境の選び方
- 1.6 システムインテグレータとしてのメリット
- 1.7 クラウドシステムの活用のポイント
- 1.8 クラウドへの移行・活用戦略
- 1.9 クラウドのマネージドサービスで合理的なシステムを構築
- 1.10 Well-Architected フレームワークの活用

第2章 クラウドのアーキテクチャを正しく理解する

- 2.1 クラウドを理解する

- 2.2 クラウドの利用形態を知ろう
- 2.3 クラウドのサービスモデルを知ろう
- 2.4 クラウドにおけるコンピューティングの仮想化
- 2.5 Kubernetes でコンテナを管理する
- 2.6 クラウドネットワーク
- 2.7 クラウドストレージ

第3章 クラウドにおけるアプリケーションの開発と運用

- 3.1 クラウドにおけるアプリケーション開発
- 3.2 クラウドアーキテクチャの選択
- 3.3 アプリケーションの移行方法
- 3.4 クラウドネイティブ
- 3.5 クラウドに合わせてアプリケーションをデザインする
- 3.6 マイクロサービスアーキテクチャ
- 3.7 DevOps と CI/CD
- 3.8 クラウドにおける監視
- 3.9 SRE

第4章 クラウドセキュリティの考え方と実践

- 4.1 クラウド利用システムのセキュリティとは
- 4.2 クラウド利用システムの具体的なリスクと全体像
- 4.3 セキュリティ技術対策
- 4.4 安定性の確保
- 4.5 セキュリティ組織対策
- 4.6 クラウド関連事業者に対する要求事項
- 4.7 クラウドセキュリティ対策にかかわる参考情報

第5章 ハイパフォーマンスマシン、モビリティのクラウドアーキテクチャ

- 5.1 人工知能クラウド基盤を提供する ABCI
- 5.2 交通を変えるモビリティクラウドサービス

第6章 情報管理と法制度

- 6.1 知らないでは済まされないクラウドの情報管理と法制度
- 6.2 クラウド上で処理される情報に関する法的責任
- 6.3 国境を越えるクラウドと外国法の適用



株式会社 オーム社

◆本書に関するお問合せ◆

株式会社オーム社 編集局 編集部門 編集第4グループ

TEL 03(3233)0794

FAX 03(3293)6889

E-mail itsunoda@ohmsha.co.jp

ご寄付のお願い

情報処理学会は、情報処理に関する学術および技術の振興をはかることにより、学術、文化ならびに産業の発展に寄与することを目的に各種事業を戦略的に展開しております。今回、学会活動の更なる活性化を図る上で会員の皆様からご寄付を頂戴いたしたく、お願いを申し上げます。

皆様から頂きますご寄付は

情報技術を通じて、人類及び世界の発展に資するため
情報技術を中心に学術および技術の振興に資するため
将来を担う人材の育成に資するため

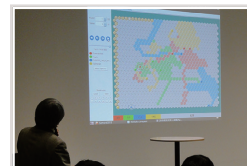
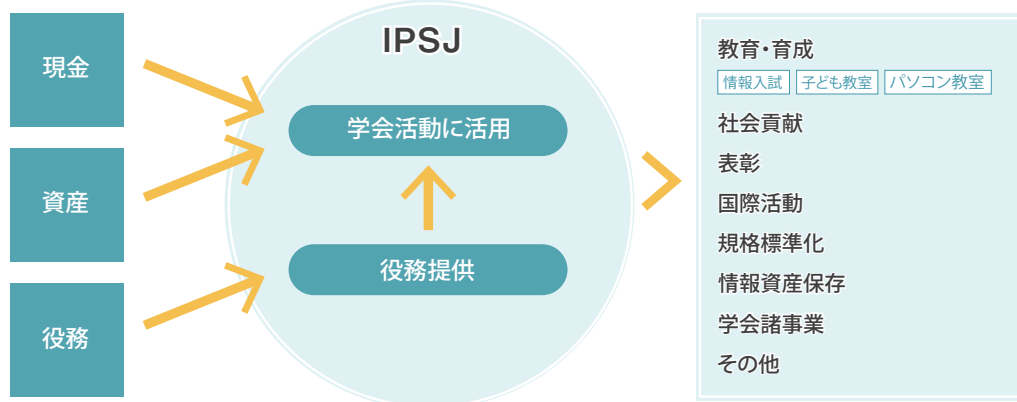
などの観点に照らし、下記の項目に活用させて頂く所存です。

今回ご寄付をお願いしたいのは現金に加えて、情報技術に関わる有形無形の資産（著作物、電子的コンテンツ、特許、ソフトウェア等）、ボランティアで提供いただける役務提供（経験や知識に基づく役務）なども含まれます。お預かりいたしましたご寄付のうち用途のご指定のあるものは、そのご意向に沿った活用をさせて頂き、ご指定のないものは、その用途を学会活動の活性化に有効な諸事業で活用させて頂きます。今後も会員の皆様の絶大なるご支援・ご協力を頂きながら、学会発展のために努力して参る所存でありますので、何卒よろしくごお願い申し上げます。

* ご注意 情報処理学会は寄付金に対する税金が優遇される特定公益増進法人ではございません。

IPSJ 寄付

会員他寄付



詳しくはこちら

<https://www.ipsj.or.jp/annai/other/donation.html>

お問合せ

一般社団法人 情報処理学会 管理部門

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F

TEL 03-3518-8374 FAX 03-3518-8375

✉ soumu@ipsj.or.jp

情報処理学会の会員になりませんか!

www.ipsj.or.jp

新規会員
募集中

一般社団法人 情報処理学会は、IT に関する専門家集団として健全な情報化社会の実現に向けて、学術・文化・産業等の多方面に貢献しています。

■活動の概要

- 出版活動（学会誌「情報処理」、論文誌、デジタルプラクティス、単行本の発行）、電子図書館への掲載
- 各種行事の開催（研究発表会、全国大会、FIT（情報科学技術フォーラム）、シンポジウム、連続セミナー、短期集中セミナー他）
- 教育活動（大学の標準カリキュラム策定、JABEE 認定審査、認定情報技術者（CITP）認証、教員免許更新講習）
- 国際交流（IFIP への加盟、海外学協会との提携）
- 標準化活動（情報技術に関する国際標準規格開発および普及活動）
- その他の活動（各種提言・コンピュータ博物館の運営・情報処理技術遺産の認定・表彰・支部活動他）

■会員になるには

入会金（正会員のみ）と会費をお振り込みの上、入会申込書をお送りください。理事会で承認後会員証（賛助会員除く）をお送りします。情報処理学会の会員は、個人会員と賛助会員から構成されています。

個人会員

- 名誉会員：本会の活動において特別な功績があり、総会で推薦された個人
- 正会員：本会の目的に賛同して入会した個人で、本会の中心的会員
- 学生会員：学校に在学中の個人
- ジュニア会員：小学生～大学学部3年生以下の学生（会費無料）

賛助会員

本会の活動をサポートする団体または個人

■ご入会いただくと、こんな良いことがあります。

1 最新技術を紹介する会誌「情報処理」が毎月お手元に届きます（ジュニア会員は電子版のみ）。

特集：より自由でより没入感の高いイマーシブメディア／デジタルアーキテクチャデザイン／触覚と情報処理／最新のデジタル・フォレンジック事情／人の動きを捉え社会を動かす人口流動統計／身近になった対話システム／観光情報学—スマートツーリズムに向けた研究動向—／植物と情報処理／自動運転元年／スマートファクトリーは工場の何を変えるのか？ 他

2 IT実践の現場で創出された創意工夫、新しい利用法、教訓などを紹介する「デジタルプラクティス」を読むことができます（電子版のみ）。

特集：オープンサイエンスを支える研究データ基盤／感性情報学最前線／快適な運用管理を支えるインターネットと運用技術／DXのプラクティス／ビッグデータのデータサイエンス 他

3 電子図書館で「情報処理」の過去の記事を見ることができます。

4 「連続セミナー」に会員価格（4,000 円お得）で参加できます。

時代に即しかつ技術の先進性に富んだ内容をテーマに、その分野の第一線で活躍している講師を招いて年数回にわたり開催しています。2021年度は「ニューノーマル時代に向けた情報技術の潮流」をテーマに、12回オンラインにて開催しました。

5 ホットピックスに対応する「シンポジウム・セミナー」（5,000 円以上お得）や「研究会」に会員価格で参加できます。

クラウドコンピューティング、ソフトウェア開発、システム・アーキテクチャ、情報家電システム、LSI設計、高性能計算技術、プログラミング、アルゴリズム、ゲーム工学、セキュリティ、量子ソフトウェア、IoT、情報デザイン、情報倫理、バイオ、高齢社会デザイン、コンピュータグラフィックス、ビッグデータ、モバイルヘルスケア、スマートコミュニティ、音楽情報処理、ラーニングアナリティクス、障害者支援技術...

6 出版図書が会員割引で購入できます。

IT Text シリーズ、日本のコンピュータ史等

他にも会員向けサービスがたくさんあります。詳細は学会 Web サイトをご覧ください。



2021年度

ホット
トピックス

お問合せは、
一般社団法人 情報処理学会 会員サービス部門

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
Tel.(03)3518-8370 Fax.(03)3518-8375 mem@ipsj.or.jp

＜会誌編集委員会＞

編集長 五十嵐悠紀

副編集長 加藤 由花 櫻 惇志 福地健太郎

担当理事 高橋 尚子 木村 朝子

編集委員 井上 創造 浦西 友樹 太田 智美
折田 明子 酒井 政裕 清水 佳奈
田中 宏 中澤 里奈 中島 一彰
西川 記史 西原 翔太 橋本 誠志
堀井 洋 山本ゆうか

(会員サービス分野／MWG)

主 査 上田 俊
幹 事 加藤 千裕
委 員 鷗川 始陽 小澤 圭右 亀井 仁志
工藤瑠璃子 恋塚 葵 莊司 慶行
白井 匡人 竹内 勇貴 田中リベカ
角尾 晋一 真鍋 知博 水上 雅博
美濃 恵伍 梁 俊 早稲田篤志

(教育分野／EWG)

主 査 白井詩沙香
幹 事 坂東 宏和
委 員 赤澤 紀子 天野 由貴 井手 広康
稲垣 俊介 井上 仁 上松恵理子
岡本 雅子 越智 徹 小原 格
角田 博保 久保田真一郎 小林 真也
島袋 舞子 関谷 貴之 高木 正則
高橋 尚子 古本 知大 松浦 健二
間辺 広樹 和田 勉

(アプリケーション分野／AWG)

主 査 袖 美樹子
幹 事 石黒 正揮 佐々木貴之 末永 高志
委 員 青木 秀一 小出 誠二 田中 功一
西田 光甫 濱田 悠司 古川 諒
増田 聡 真部 雄介 吉村 剛

(システム分野／SWG)

主 査 林 真人
幹 事 滝澤真一郎
委 員 上田 高德 大島 浩資 北島 信哉
下村 武史 照屋 大地 徳本 修一
中丸 智貴 西村 祥治 春田秀一郎
深井 貴明 横山 大作

(基礎・理論分野／FWG)

主 査 和佐 州洋
幹 事 高木 拓也
委 員 上浦 尚武 榎 美紀 小形 真平
河野 慎 桑名 杏奈 佐々木勇和
長尾 篤樹 藤重 雄大

(次世代分野／NWG)

主 査 太田 智美
幹 事 中田眞城子
委 員 五十嵐悠紀 桂井麻里衣 櫻 惇志
辰己 丈夫 福地健太郎 山本ゆうか

(特別解説分野／SCWG)

主 査 金子 格
幹 事 石黒 正揮 須川 賢洋
委 員 板倉陽一郎 上原哲太郎 楠 正憲

(デジタルプラクティス分野／DPWG)

主 査 斎藤 彰宏
幹 事 石井 一夫 藤瀬 哲朗
委 員 青木 学聡 荒木 拓也 飯村結香子
今原修一郎 岩倉 友哉 江谷 典子
鬼塚 真 鎌田真由美 上條 浩一
坂下 秀 佐藤 聡 佐藤 裕一
澤邊 知子 立床 雅司 戸田 貴久
長坂 健治 西尾 直也 西山 博泰
新田 清 濱崎 雅弘 平井 千秋
福原 知宏 藤原 一毅 細野 繁
横井 直明 吉野 松樹 除補由紀子

CONTENTS

Preface

- 396 **Increasing the Value of Performers by Using Technology**
Minoru FUJIMOTO (MPLUSPLUS Co., Ltd.)

Special Features

Mastering XAI Which Explains the Evidence of AI Judgment

- 398 **Foreword**
Mikiko SODETANAKA (International College of Technology) and Takayuki SASAKI (Yokohama National Univ.)
- 400 **Outline**

Digital Practice Corner

Standardization Strategies for Surviving Digital Competition

- 402 **Foreword**
Kazuya KAWAI (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology) and Matsuki YOSHINO (Hitachi, Ltd.)
- 404 **Outline**

Special Issue of the Internet and Operation Technologies for Considering to a New Normal

- 408 **Foreword**
Yutaka NAKAMURA (Kyushu Institute of Technology) and Minoru IKEBE (Oita Univ.)

Article

- 420 **An Introduction for JST Global Science Campus Experts in Information Science**
Ken-ichi KAWARABAYASHI (National Institute of Informatics)

"Peta-gogy" for Future

- 411 **Promote Inquiry-based Study That Brings Out the Appeal of the "Information Study"**
Takeharu TASAKI (National Institute for Educational Policy)
- 412 **The Significance of the Junior and Senior High School Students' Informatics Research Contest and the Fourth Annual Judging**
Johnny NAKANO (Junior and Senior High School of Kogakuin Univ.)
- 416 **Excellent Works in the 4th Informatics Research Contest for Junior and Senior High School Students**
Tomohiro INAGAKI (Hiroshima Univ.)

Let's Learn Informatics

- 430 **The Ingenuity of Teaching to Solve the Problems of Remote Island Students - Through Distance Learning of the Subject "Programming Technology" -**
Susumu MATSUSHIMA (Okinawa Prefectural Yaeyama Commercial and Technical High School)

Reports : The 2021 IPSJ Best Paper Award

- 450 **Foreword**
Yasue KISHINO (NTT Communication Science Labs.)

- 451 **Strange Use of Sensors and Smartphones**
Katsuhiko KAJI (Aichi Institute of Technology)
- 452 **Manipulatable Auditory Perception in Wearable Computing**
Hiroki WATANABE (Hokkaido Univ.) and Tsutomu TERADA (Kobe Univ.)
- 453 **Face Counter : Measuring Face-To-Face Interaction**
Akane OKUNO (Hitachi Astemo, Ltd.) and Yasuyuki SUMI (Future Univ. Hakodate)
- 454 **It Never Rains but It Pours : Protecting Users from Web Threats**
Takashi KOIDE (NTT Security (Japan) KK)

Reports : The 2021 IPSJ Industrial Achievement Award

- 455 **Foreword**
Naonori UEDA (NTT Communication Science Labs.)
- 456 **Make Graph AI Trustworthy in the Field**
Koji MARUHASHI, Wing Yee AU, Tatsuru MATSUO (Fujitsu Ltd.), Arseny TOLMACHEV (Works Applications Systems Co., Ltd.) and Takuya NISHINO (Fujitsu Ltd.)
- 457 **Moving Forward to Secure and Usable Authentication Without Passwords**
Hidehito GOMI, Wataru OOGAMI, Yuya ITO and Tomohiko YOSHIOKA (Yahoo Japan Corp.)
- 458 **Birth of Japan's Largest People Flow Big-Data**
Ryuichi IMAI (Hosei Univ.), Daizo IKEDA (Nippon Telegraph and Telephone Corp.), Koichi SHIGETAKA, Hiroyasu SHINGAI and Hiroataka SEKIYA (National Institute for Land and Infrastructure Management, Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism)

Reports : The 2021 IPSJ Microsoft Faculty Award

- 459 **Foreword**
Masami HAGIYA (The Univ. of Tokyo)
- 460 **Empirical Studies on New Trends in Software Development Ecosystems**
Hideaki HATA (Shinshu Univ.)
- 461 **Challenges and Joy in Integrating Technology and Design**
Koji YATANI (The Univ. of Tokyo)

Reports : The 2021 IPSJ Research and Engineering Award

- 462 **Foreword**
Masami HAGIYA (The Univ. of Tokyo)
 - 463 **Conducting Research Like a Music Ensemble**
Akira MAEZAWA (YAMAHA Corp.)
-
- 437 **Gathering to Share Original Programming Projects for Junior**
 - 438 **Questions for Experts**
 - 440 **IT Travelog Manga**
 - 442 **Biblio Talk**
 - 444 **Skimming a Famous Paper in Five Minutes**
 - 447 **Conference Report**

**Online Only
Special Features**

Mastering XAI Which Explains the Evidence of AI Judgment

- e1 **XAI : Explainable Artificial Intelligence**
Tomoharu NAGAO (Yokohama National Univ.)
- e8 **Key Points of eXplainable AI for Industrial Use**
Teppei SAKAMOTO and Hiroyuki ABE (NTT DATA Corp.)
- e14 **XAI Efforts That Can Clarify the Basis of Control by Devising DX and UI**
Toshisada MARIYAMA, Yusuke YOKOSUKA and Hiroaki HOKARI (Mitsubishi Electric Corp.)
- e21 **Time-Series Waveform Anomaly Diagnostic Methods Utilizing Learning Shapelets for Infrastructure and**

Manufacturing Fields

Akihiro YAMAGUCHI (Toshiba Corp.)

- e25 **Deep Learning Tool to Bring Explainable AI Closer**
Kenji SUZUKI (Sony Group Corp., R&D Center)
 - e31 **Toward Realization of Trustworthy AI - Approaches to Improve Convictions of Explanation Generated by XAI**
Masashi EGI, Masayoshi MASE and Masaki HAMAMOTO (Hitachi Ltd.)
-
- e37 **What Kind of Exam Questions on Informatics Will Appear in University Entrance Exams?**



「情報処理」は kindleでも ご購入いただけます！

情報処理学会が発行する会誌「情報処理」は、オンライン通販サイトamazonにてKindle(電子版)でも販売しています。ぜひご利用ください。

◀ 「情報処理」(毎月15日発行)
各分野のトップレベルの方々が、最新技術を分かりやすく解説しています。著名人による巻頭コラム、特集、解説、報告、連載、コラムなど。

◆ 価格 1,760円(税10%込)

一般社団法人
情報処理学会
Information Processing Society of Japan

会誌編集部 E-mail: editj@ipsj.or.jp
Tel.(03)3518-8371 Fax.(03)3518-8375

ご注文は ⇒ <https://www.amazon.co.jp/>

訂正

本誌63巻7号(2022年7月号)の連載:ピブリオ・トークー私のオススメ「初めてのPerl第7版」に一部誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

P.359 著者略歴

(誤) kishii@rs.sus.ac.jp

(正) sekiya@ecc.u-tokyo.ac.jp

説明可能 AI に関する特集は、編集委員会のネタ出しの際に私がなんとなく口にしたものでしたが、特集を組むことになりました。しかし、言い出しっぺの私が編集委員会に参加できないことが多かったため、このような形でまとまりましたのは袖先生、佐々木様をはじめとする編集委員の皆様と事務局の皆様の力によります。ありがとうございます。私がグループ会議で説明可能 AI について発言したのは、深層学習の隆盛とともにその複雑なモデルの説明可能性や解釈性に注目が集まっていたことはもちろんですが、私個人が大学院生時代に近い技術を使って研究していたことに由

来します。具体的には、ニューラルネットワークの構造や隠れ層のニューロンにある種のペナルティを付加したり、入出力応答に基づきニューロンの合成や分化を行ったりするものです。うまくすると、学習後のニューラルネットワークをルール形式に変換したり、入出力データに内在する因果関係をネットワーク構造として浮かび上がらせるといったことが可能となります。本特集記事を読み、今改めて当時の研究のアイデアが活かせるかもしれないと、ますます興味が湧いてきました。

(真部雄介／本特集エディタ)

次号 (9月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

※はオンライン版のみの掲載となります

「特集」AI の社会実装に向けたガバナンスの課題と取り組み※

「人間のための AI (human-centric AI)」を実現する社会実装の道筋～ AI 社会原則と AI ガバナンス・ガイドライン～／ AI とコンプライアンス—デジタル時代の企業と法—／ AI ガバナンスに関する国際標準動向／ AI の品質管理およびリスクチェックに関する取り組み／企業における AI 倫理を見据えた AI ガバナンスの取り組み

トピックス：2021 年度研究会推薦博士論文速報※

報告：未踏の第 28 期スーパークリエイターたち※

教育コーナー：べた語義

連載：5 分で分かる!? 有名論文ナナム読み／情報の授業をしよう！／先生、質問です！／ビブリオ・トーク

コラム：巻頭コラム

学会活動報告：情報技術の国際標準化と日本の対応— 2021 年度の情報規格調査会の活動—

読後のご意見をお送りください

本誌では、現在約 170 名の方々に毎号のモニタをお願いしておりますが、より多くの読者の皆さんからのご意見、ご提案をおうかがいし、誌面の充実に役立てていきたいと考えておりますので、以下 Web ページから奮って事務局までお寄せください。

「情報処理」アンケートページ <https://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>

一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp

複写される方へ

一般社団法人情報処理学会では複写複製および転載複製に係る著作権を学術著作権協会に委託しています。当該利用をご希望の方は、学術著作権協会 (<https://www.jaacc.org/>) が提供している複製利用許諾システムもしくは転載許諾システムを通じて申請ください。

尚、本会会員（賛助会員含む）および著者が転載利用の申請をされる場合には、学術目的利用に限り、無償で転載利用いただくことが可能です。ただし、利用の際には予め申請いただくようお願い致します。

権利委託先：一般社団法人学術著作権協会
〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル
E-mail: info@jaacc.jp Tel (03)3475-5618 Fax (03)3475-5619

また、アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡してください。
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

Notice for Photocopying

Information Processing Society of Japan authorized Japan Academic Association For Copyright Clearance (JACC) to license our reproduction rights and reuse rights of copyrighted works. If you wish to obtain permissions of these rights in the countries or regions outside Japan, please refer to the homepage of JACC (<http://www.jaacc.org/en/>) and confirm appropriate organizations.

You may reuse a content for non-commercial use for free, however please contact us directly to obtain the permission for the reuse content in advance.

<All users except those in USA>

Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan
E-mail: info@jaacc.jp
Phone: 81-3-3475-5618 Fax: 81-3-3475-5619

<Users in USA>

Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

..... 広告のお申込み

■広告料金表（価格は税 10%込）

| 掲載場所 | 4色 | 1色 |
|--------------------------------|----------|----------|
| 表2 | 363,000円 | — |
| 表3 | 302,500円 | — |
| 表4 | 423,500円 | — |
| 表2対向 | 330,000円 | — |
| 表3対向 | 291,500円 | 170,500円 |
| 前付1頁 | 275,000円 | 148,500円 |
| 前付1/2頁 | — | 88,000円 |
| 前付最終 | — | 162,800円 |
| 目次前 | — | 162,800円 |
| 差込 (A4変形判 70.5kg未満 1枚) | 302,500円 | |
| 差込 (A4変形判 70.5kg～86.5kg 1枚) | 385,000円 | |
| 同封 (A4変形判 1枚) | 385,000円 | |

■「情報処理」

発行 一般社団法人 情報処理学会
 発行部数 20,000部
 体裁 A4変形判
 発行日 毎当月15日
 申込締切 前月10日
 原稿締切 前月20日
 広告原稿 完全版下データ
 原稿寸法 1頁 天地 250mm × 左右 180mm
 1/2頁 天地 120mm × 左右 180mm
 雑誌寸法 天地 280mm × 左右 210mm

■問合せ・お申込み先

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27
 アドコム・メディア(株) (Tel/Fax/E-mailは下に記載)

*原稿制作が必要な場合には別途実費申し受けます。
 *同封のサイズ・割引の詳細についてはお問合せください。

..... 掲載広告の資料請求

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、ご希望の会社名にチェック を入れ、送付希望先をご記入の上、Faxにて（またはE-mailにて必要事項を記入の上）アドコム・メディア(株)宛にご請求ください。

■「情報処理」 63巻8号 掲載広告（五十音順）

- オーム社..... 表2対向 フォーラムエイト 表2
 とめ研究所..... 前付最終 すべての会社を希望

■資料送付先

| | | | |
|-------------|---------------|-------|---------------|
| フリガナ お名前 | _____ | | |
| 勤務先 | _____ 所属部署 | | |
| 所在地 | (〒 _____) | _____ | |
| | TEL (_____) | - | FAX (_____) |
| ご専門の分野 | _____ | | |



お問合せ・お申込み・資料請求は

広告総代理店 **アドコム・メディア(株)**

Tel.03-3367-0571 Fax.03-3368-1519 E-mail: sales@adcom-media.co.jp

賛助会員のご紹介

本会をご支援いただいております賛助会員をご紹介します。

Web サイト (<https://www.ipsj.or.jp/annai/aboutipsj/sanjo.html>) 「賛助会員一覧」のページからも
各社へリンクサービスを行っておりますので、ぜひご覧ください。

照会先 情報処理学会 会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp Tel.(03)3518-8370

●●● 賛助会員 (20 ~ 50口)

HITACHI
Inspire the Next

(株) 日立製作所



三菱電機 (株)

FUJITSU

富士通 (株)



(株) サイバーエージェント

Orchestrating a brighter world

NEC

日本電気 (株)



日本アイ・ピー・エム (株)

●●● 賛助会員 (10 ~ 19口)



(株) リクルート



(株) NTT ドコモ



(株) 東芝



日本電信電話 (株)



日本マイクロソフト (株)



(株) フォーラムエイト

●●● 賛助会員 (3 ~ 9口)



(一社) 情報通信技術委員会



(株) NTT データ



グリー (株)



(一財) インターネット協会



(一社) 情報サービス産業協会



トレンドマイクロ (株)



三菱電機ソフトウェア (株)



(株) BFT



NTTコムウェア (株)



NTTテクノクロス (株)



(株) うえじま企画



沖電気工業 (株)



コアマイクロシステムズ (株)



三美印刷 (株)



ソニー (株)



(株) テクノプロ
テクノプロ・デザイン社



みずほリサーチ&テクノロジーズ (株)